

## 事例研究報告

特別支援学校中学部生徒の  
自発的な行動を引き出す支援

## 生徒の実態

- ・ 中学部生徒 知的障がい。
- ・ 理解言語が少なく、言語による指示と直接身体に触れる指示とを組み合わせながら支援している。
- ・ 手揉みをしていることが多いが、呼名時には目の前で手を出すと、指先でタッチして挨拶に応じることができる。
- ・ 視機能の検査を行ったところ視力は0.4程度、両目を使って見ることができる。
- ・ 好きなことは食べることや毛布でくるまったりすることで、興味関心は少ない。
- ・ 食事場面以外で自発的な行動は少ない。自由に動くことができる環境では、教室内や廊下をうろうろしながら歩くことが多い。
- ・ 家庭で母親へのスキンシップの要求が強く、学校でも教員に求めてくることがある。

## 教員の考え

- 1) 教師からの声かけに対して相手を見ることが出来る。
- 2) 自発的な行動ができる場面を増やす。



## アドバイザーからの助言

- 教師からの声かけに対して視線を合わすことについて
  - ・見るための指導は、余計に見なくなることもあるので、本生徒の目標としてはふさわしくない。
- 自発的な行動を誘発することについて
  - ・現在できている行動を使って学習を進める方がよい。
  - ・座ったままであると受動的になりやすいため、移動しながらこなす課題や活動がよい。
  - ・自分でできたという達成感が必要。
- その他
  - ・手揉みは気にしなくてもよい。

## 指導目標の見直し

### 指導目標

『一人で保健室へ保健日誌を持っていき、  
教室に戻ることができる。』

### 〈活動の流れ〉

- 1 保健室まで移動する
- 2 養護教諭に渡す／箱に入れる。
- 3 教室に移動する。

## 指導の手続き

(以下の指導に共通する事項)

- ①本生徒の体調やクラスの状況により実施可能なときに1日1～3回程度実施する。
- ②右手が優位に動くため、本生徒の右側から保健日誌を手渡す。
- ③保健日誌を持つときには、手揉みしている手に紐が絡まないように紐に装着した取っ手を持たせる。
- ④本生徒の移動中は後方から見守り、引き戻してきたり異なる方向に向かって歩いたときのみ身体的ガイダンスで修正する。
- ⑤教室に帰ってきたら、タッピングしながら「〇〇さんありがとう。」と伝えて称賛する。

# 指導1

- 養護教諭に本生徒が持ってくることを伝えて待機してもらう。
- 教室にて本生徒に「保健室をお願いします」と言いながら保健日誌を手渡す。
- 一人の教師は中ホールから出たトイレ側で待機し、トイレのある右方向へ曲がろうとしたらブロックし、身体的ガイダンスを行い保健室へ誘導する。
- 養護教諭に手渡すことができたなら「ありがとう」と声をかけてもらう。
- 教室に帰って本生徒の椅子に座ったら称賛する。

# 指導1の成果

- トイレ側(右)で教師が待機して支援を行ったところ、教師が手がかりとなって、教師に向かって右に曲がるようになった。
- 保健室から教室までの移動はほぼ支援なしで帰ることができた。
- 回数を増やして実施したが、保健室がある左に曲がることが難しかったため、〈指導1〉から〈指導2〉に変更した。

## 指導2

- 本生徒が保健室に向いた状態でアコーディオンカーテンの横で手渡す。
- 保健室の状況は常に変化すること、一人で保健室前の箱に入れて帰ってくることができたことから、「養護教諭に渡す」「箱に入れる」どちらも可とし、養護教諭には適宜対応してもらおうこととする。

## 指導2の成果

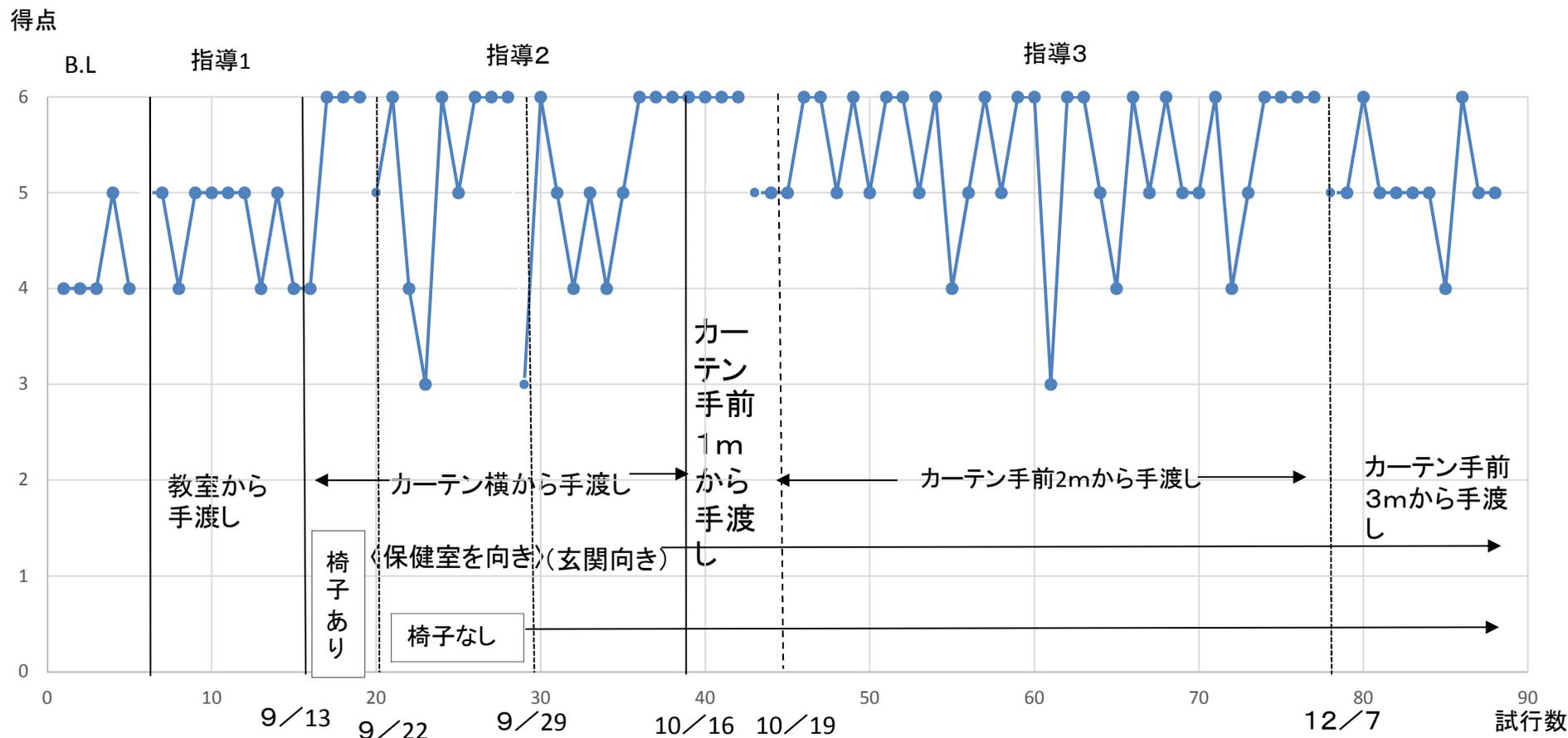
- 保健室まで直線の経路(40 m)は、一人で保健日誌を持って行くことができた。



## 指導3

- 正面玄関に向いた状態で手渡し、中ホールアコーディオンカーテンの内側1m→2m→3mと距離を伸ばす。

# 一人で保健室へ保健日誌を持って行き、教室に戻る



- 1) 保健室まで移動する
- 2) 保健室の先生に渡す(箱に入れる)
- 3) 教室まで移動する

各項において  
一人でできた・・・2点  
身体ガイダンスでできた・・・1点  
(3回連続6点満点で達成)

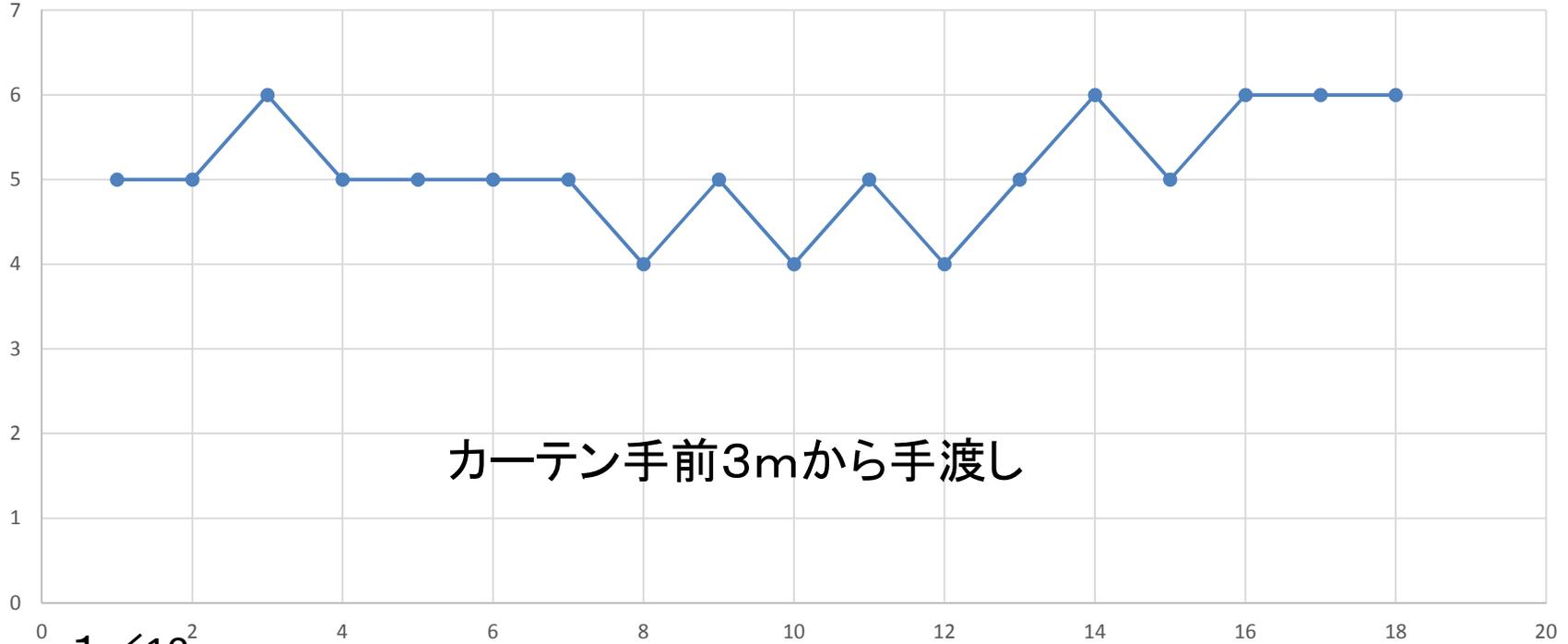
## 指導3の成果

- 中ホールと廊下の間のアコーディオンカーテン手前2mからであれば、左に曲がって保健室まで移動することが可能であるが、3m以上ではトイレのある右に曲がろうとすることもあり、定着が難しかった。
- 保健室まで移動する途中、進行方向から人が来たり横を通りすぎる人がいると、刺激となり後について行こうとすることがあった。

# 指導3 1月以降の記録

得点

ひとりで保健室へ保健日誌を持って行き、教室に戻る



カーテン手前3mから手渡し

1 / 10

1 / 24

試行数

- 1) 保健室まで移動する
- 2) 保健室の先生に渡す(箱に入れる)
- 3) 教室まで移動する

各項において  
一人でできた・・・2点  
身体ガイダンスでできた・・・1点  
(3回連続6点満点で達成)

# ここが成功のポイント



○自ら移動しながら学習できる機会を設定する。

○本生徒の実態に合わせて、スモールステップで実践していくための指導のポイント・注意点などを共通理解する。

○担任者が本生徒の課題を意識しながら関わる。